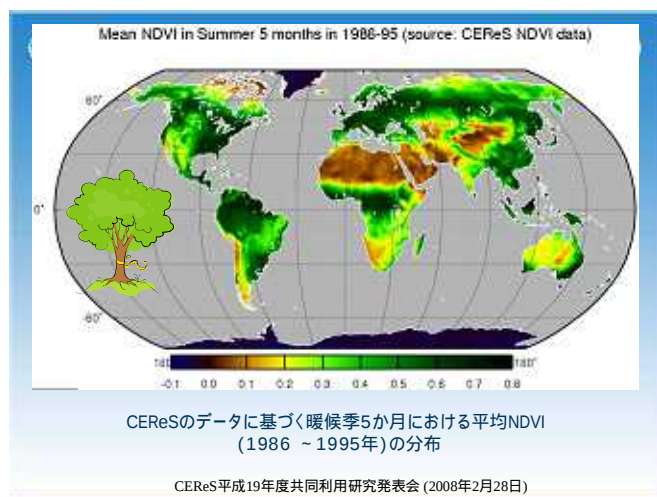
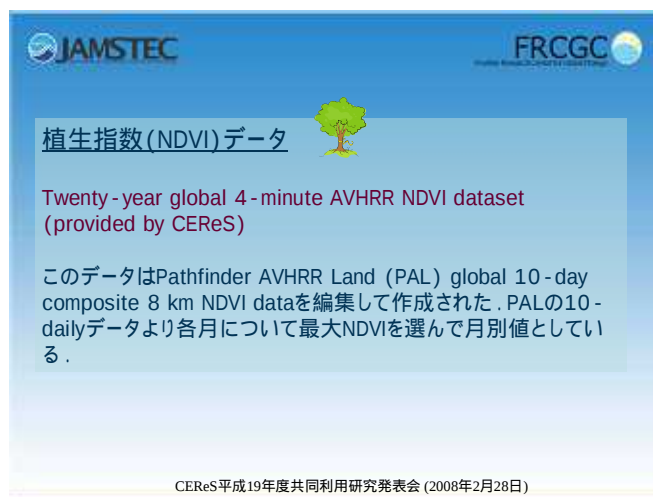
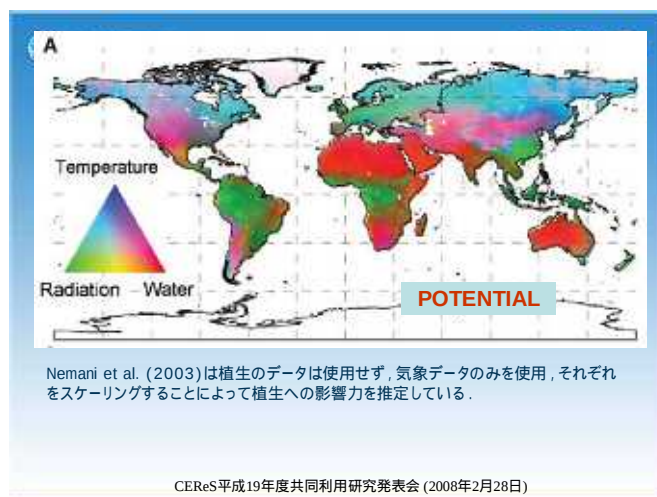
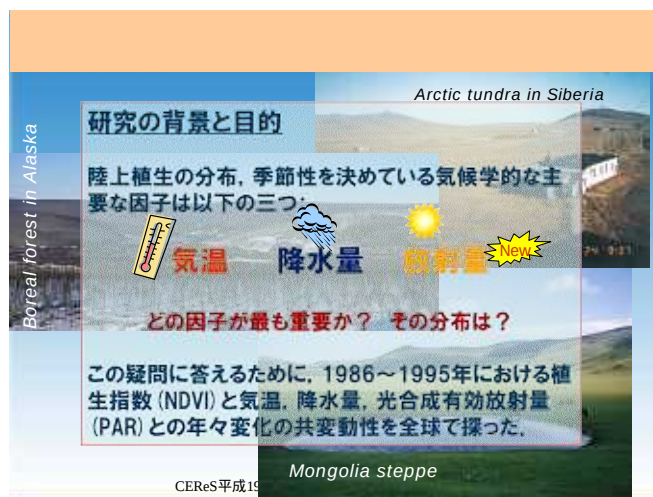
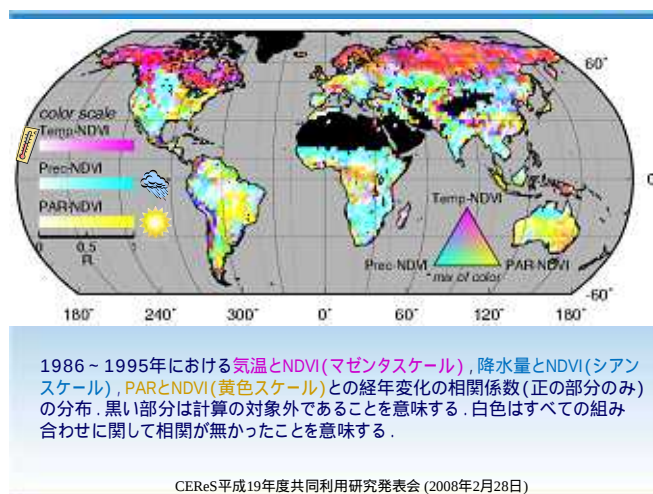
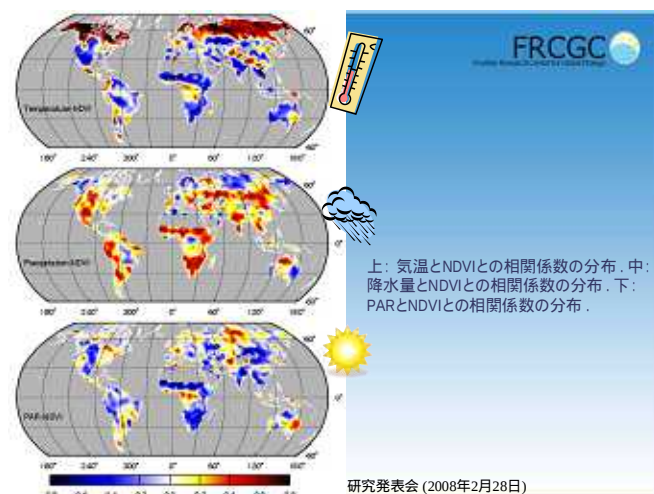
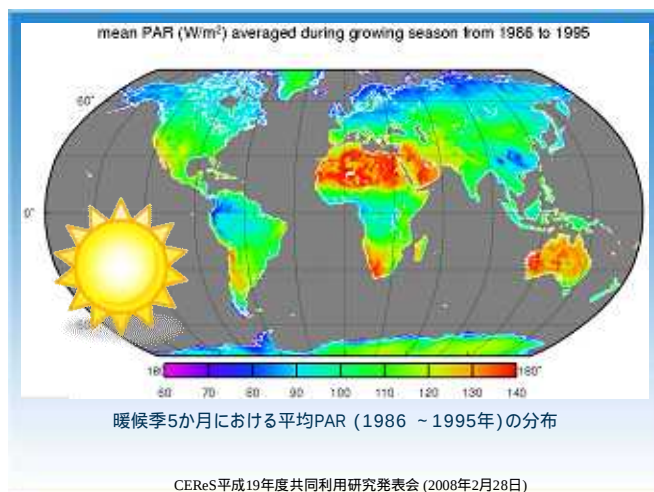
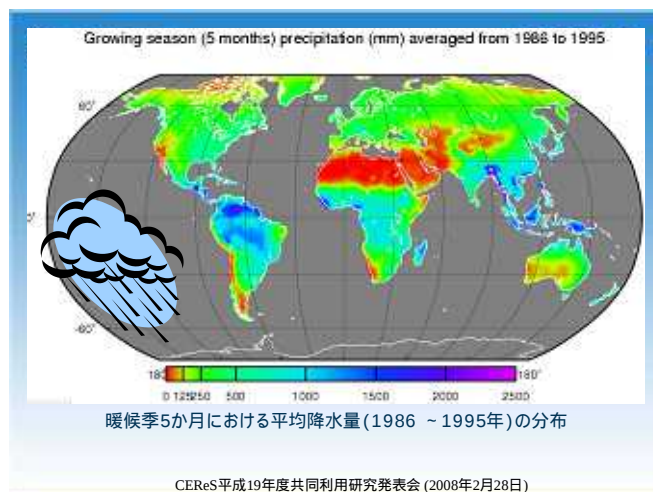
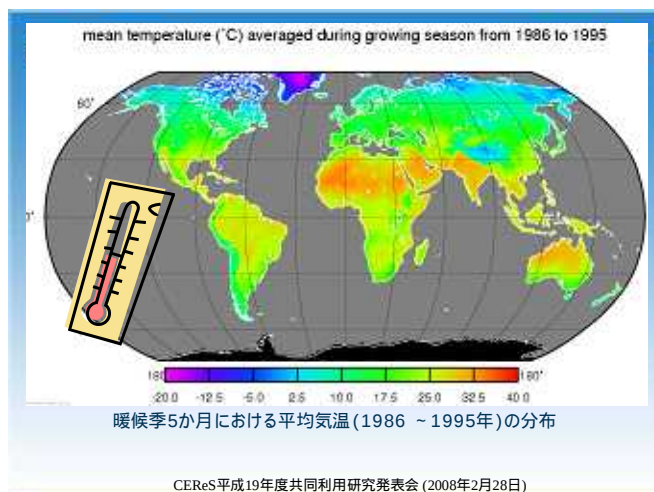
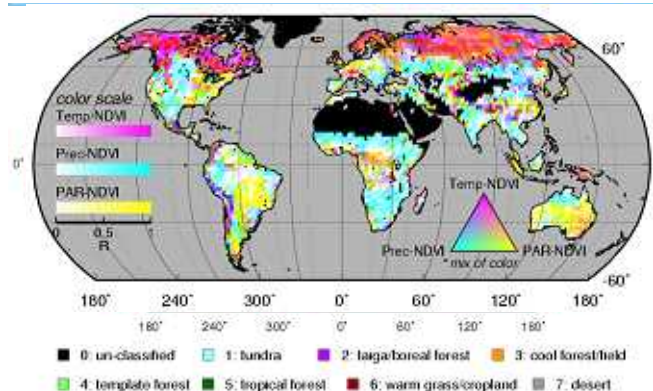


プロジェクト - 1

全球 NDVI の降水量、気温、放射量の経年変化に対するレスポンス

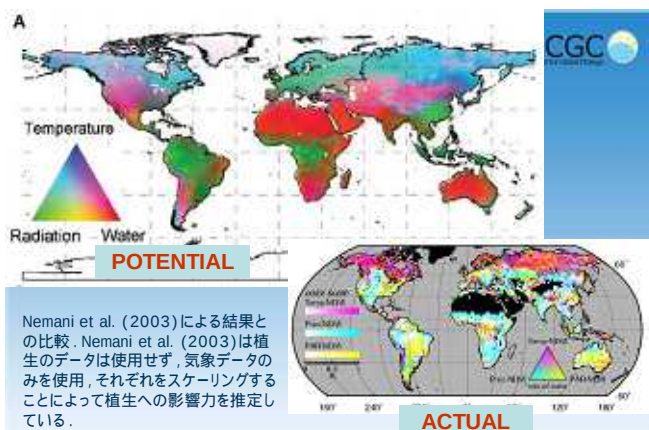






相関係数の分布とOlsonによる土地被覆分類との比較.

CERES平成19年度共同利用研究発表会 (2008年2月28日)



Nemani et al. (2003)による結果との比較. Nemani et al. (2003)は植生のデータは使用せず、気象データのみを使用、それぞれをスケーリングすることによって植生への影響力を推定している.

CERES平成19年度共同利用研究発表会 (2008年2月28日)

まとめ

- 1986～1995年における全球のNDVIと気温、NDVIと降水量、NDVIとPARとの経年変化の共変動性を調べた.
- ツンドラや亜寒帯林ではNDVIと気温との共変動性が強いことがわかった. その他の地域では、一般にNDVIと降水量との共変動性が強いことがわかった.
- ユーラシアや北アメリカ中緯度のいくつかの地域、南米のサバンナ、中国南部、オーストラリアでNDVIとPARとの強い共変動性が認められた. こういった地域は概して雲量が大きな地域にあたる.
- Nemani et al. (2003)の結果ともおおよそ一致していた.
- 以上の結果からは、植生に対する気候因子の影響力に対する基本的な関係を理解することができる.
- しかし、オーストラリアでNDVIとPARとの相関係数が大きいなど、不自然な点もあり、今後解決されることが望まれる.

2008年2月28日)

まとめ

- 1986～1995年における全球のNDVIと気温、NDVIと降水量、NDVIとPARとの経年変化の共変動性を調べた.
- ツンドラや亜寒帯林ではNDVIと気温との共変動性が強いことがわかった. その他の地域では、一般にNDVIと降水量との共変動性が強いことがわかった.
- ユーラシアや北アメリカ中緯度のいくつかの地域、南米のサバンナ、中国南部、オーストラリアでNDVIとPARとの強い共変動性が認められた. こういった地域は概して雲量が大きな地域にあたる.
- Nemani et al. (2003)の結果ともおおよそ一致していた.
- 以上の結果からは、植生に対する気候因子の影響力に対する基本的な関係を理解することができる.
- しかし、オーストラリアでNDVIとPARとの相関係数が大きいなど、不自然な点もあり、今後解決されることが望まれる.

2008年2月28日)

過去の研究

左図: 10年(1986～1995)平均の全球1度グリッド上のNDVI、温度指数、湿度指数との関係.

右図: 差図から計算されたNDVIの温度指数に対する傾き(赤)と湿度指数に対する傾き(青)の分布. 赤の地域の植生は温度、青の地域の植生は降水量に依存していることを意味する. (Suzuki et al. 2006より)

過去の研究

CERES平成19年度共同利用研究発表会 (2008年2月28日)

過去の研究

左図: 10年(1986～1995)平均の全球1度グリッド上のNDVI、温度指数、湿度指数との関係.

右図: 差図から計算されたNDVIの温度指数に対する傾き(赤)と湿度指数に対する傾き(青)の分布. 赤の地域の植生は温度、青の地域の植生は降水量に依存していることを意味する. (Suzuki et al. 2006より)

過去の研究

CERES平成19年度共同利用研究発表会 (2008年2月28日)